山城・丘城の分布にみる志摩郡　地理域から見た志摩郡
五　高祖城城とその遺構一発掘調査の概要一……三六
高祖城の概観　高祖城の遺構と城域の基準尺　出土遺物と城内の生活　高祖城の破却について

## 第五編　近　世

第一章　豊臣政権下の志摩地域……四〇三
第一節　豊臣秀吉の九州平定……四〇三
一　秀吉の九州進攻と秋月・原田氏……四〇三
近世の始まり
二　高祖城攻略後の原田信種の動向……四〇八
肥後国衆一揆と原田氏の動き　肥後侵攻　本格的支配の原田氏と家中　原田氏の末裔と遺跡
第二節　豊臣政権下の検地・刀狩……四一二
一　天正・文禄年中の太閤検地と石高制……四一二
天正十五・六年の太閤検地の性格　文禄四年の太閤検地とその意義
二　近世村落の成立……四一三
近世村落への胎動　石田三成の糸島地域支配　小早川秀秋の領国領域化
三　刀狩と兵農分離の性格……四一六
刀狩とその意義　武士の城下集住
第三節　豊臣政権による朝鮮出兵……四一八
一　朝鮮出兵の計画と名護屋城築城……四一八
可也山はじめとする築城やとその配置
二　文禄の役にみる加藤清正軍と原田信種……四二〇
朝鮮への大名陣立と原田氏の軍勢　加藤清正軍の陣立内容　加藤軍の一番手部隊からの在陣状況　慶長期の加藤軍七城と原田信種　吉州・端川城攻撃原田氏らの活躍　加藤清正の敗北　慶長の状勢
三　慶長の役と日本軍・朝鮮民衆の惨状……四二
自明理解の段階　慶長の役での大名陣立と戦闘状況　耳切りより鼻削ぎへ　蔚山城の充実と加藤清正・黒田長政　太閤遺の陰影
（コラム）梨羽邦勝が語る文禄の役
四　原田信種と隆倭節特「沙也可」との関連……四九
『高麗史』にみる隆倭節特「沙也可」　『高麗史』の「沙也可」の原始的の動き　『新撰高麗』のなかの朝鮮隆倭節特「沙也可」と原田信種との関連　原田信種の朝鮮軍出陣の背景　『原田家文書』等の記事から　原田五郎左衛門の降参日二〇〇石の意味　原田信種の生地・糸島郡の歴史地理的背景　遺子薬種の変転と会津移住
第二章　徳川政権下の福岡藩政と志摩地域……四六二
第一節　関ヶ原の戦いと黒田氏の筑前入国……四六二
一　黒田長政の福岡藩域と統治……四六二
黒田氏の筑前入国　福岡城と城下町の建設　六端城と重臣の配置　「郡預り」の支配　志摩郡内の知行地　朝鮮支配の原風景
二　慶長七年の検地と志摩郡諸村の農民……四六六
三　慶長・元和年中の新田検地と新村の統廃合……四七二
年貢の推移　本村・枝村の集散　諸村の分立状況　志摩郡御床地方からみた農村傾向
四　黒田長政の日光東照宮鳥居献納と可也山大石……四八〇
日光東照宮の造営　可也山の石出しと運搬　鳥居の建立と



献文　鳥居の仕様
第三節　福岡藩制の形成・確立と志摩地域……四八三
一　藩主黒田忠之の桜井神社勧請と黒田騒動……四八三
二支藩の創出　黒田騒動政冬　鳳凰丸事件　紅葉山東照宮の鳥居献上　桜井神社の創建　黒田騒動
二　参勤交代制と島原の乱……四九〇
黒田長政の江戸参覲　天草・島原の乱の発生と黒田忠之　天草・島原の乱の背景とその後
三　長崎警備と福岡藩沿海の遠見番所……四九三
長崎警備と福岡藩沿海の遠見番所設置　長崎警備と外国使節団の江戸参府ルート　正保二年オランダ商館長の江戸参府と志摩
第四節　福岡藩政の展開と志摩地域……四九五
一　寛文・延宝期の御救い政治……四九五
三代藩主黒田光之　藩財政の窮乏と御救い政治　知行制の改革　寛文・延宝期の志摩地域
二　幕府による竹島の朝鮮国委譲と志摩地域……四九八
福岡藩と竹島の関係　竹島の境界問題　竹島の朝鮮国委譲　日朝間国交の漂流民送還　石見浜田藩の竹島一件　竹島一件と玄界灘の海兵高礼　幕末・維新期の竹島問題
三　異国船の漂着と福岡藩の唐船打払い……五〇五
朝鮮船の漂着　英国船の漂着　唐船打払い今と現実　ロシア船問題　糸島郡川（糸島水道）
四　宇善・天明期の藩政改革……五〇八
中老吉田保年の失脚と再勤　宝暦・天明の改革　郡方仕法と村方の疲弊
第四節　幕末期の政情と世相……五一〇
一　文化・文政の社会変動……五一〇
藩財政の窮乏と農政の転換　文化・文政期の村落
二　天保改革と豪農層……五一四
御救仕組と志摩地域　近世後期藩出家の士刑集積
三　福岡藩内の政争と志摩地域……五一八
激動する中央政局　福岡藩内の尊攘派の動き　補志摩守毎の処罰　大神宅政　野村望東尼の流罪　牛尼生活の始まり　生活上の緊縛と世話する人びと　梅方の女性三人と望東尼　所方以外の人びと　望東尼の動王への情熱と姫島脱出
（コラム）野村望東尼のこと
四　民衆の台頭と一揆……五五
村方騒動と小前百姓　庄屋の弁明内容　大庄屋藤田琵琶内の説論
第三章　志摩地域の支配機構と生活……五四二
第一節　村と浦の支配機構……五四二
一　藩役人の制度……五四二
郡預り　郡奉行　浦奉行　山奉行
二　村役人の制度……五四四
大庄屋　庄家　組頭　山ノ口
三　村役人の統制と自治……五七
宗門改　ほの間知　村ぼとけの自律性
第二節　貢租と村財政……五三
一　年貢・諸役……五三
年貢負担の変遷　野北村の事例　検見と土免　年貢の納入と繰越　夫役　御用金
二　村財政……五一
村入用　村人用の立替



第三節　産業の発達……五五
一　農業……五五
農産物　村落と農民層の分解　地主・豪農と小作人　河川改修　水利　糸島水路西部計画　用排水路　水争論　干拓の着想地　堤防　江橋　樋門　二つの事業開　久家事業開
二　漁業……五一
漁夫の補　浦方の支配機構　遠見番所の設置　水夫役の負担　海士の漁場　港湾漁場　浦漁場による志摩の漁業　近世の姫島漁業　漁場をめぐる取りきめ　福岡藩の寄鯨　黒田知水・長政と捕鯨　福岡藩における鯨油の価値　玄界灘の捕鯨　長崎の近代捕鯨
三　商業一在方商業の発達一……六〇四
福岡藩領の大・小市場圏　塩手売商人　在町　農村の米穀市場と商人の出現　海法の請村と志摩商人　農村商業の新しい動き
四　手工業……六〇八
農村の市場経済化　農村の社会的分業　農産品生産から小営業へ　嶋治屋　酒造業
五　林業の発達・牧畜・その他……六一六
福岡藩の山林政策　志摩郡の山林　山林の利用　薪の商品化と燃料の育成　鷹場（御鷹場）　牛馬仕組（牧畜）
第四節　交通の発達……六二三
一　陸上交通……六二三
唐津街道と村道　街原宿　今宿　深江宿　福岡藩主の唐津街道利用　他大名の参勤交代利用　助郷
二　海上交通……六三
戦国豪商の活動と終焉　藩主主導の商品流通　五ヶ浦廻船の始源と規模　筑前屋作右衛門の活動　浦廻船の衰退　廻船の遭難と漂流　唐泊孫七と伊勢丸　孫七漂流記の類書
（コラム）筑前唐泊孫太郎の漂流記
他領商品の流通
第五節　他領災害……六四
一　火災……六四
二　水害……六四
三　長雨洪水……六四
四　旱害……六四
福岡藩領の旱魃　雨乞い行事　田畷
五　地震……六五
享保の飢饉　天明・天保の飢饉
六　疫病……六六
第四章　志摩地域の文化と宗教……六六
第一節　文化……六六
一　学問……六六
儒学　稲富希賢　牧園茅山　国学　青柳種信と伊藤常足　平田派国学と宮崎大門　大門以降の国学　医術
二　教育……六四
桜井文庫仰古館　私塾と寺子屋
三　文芸・遊芸・趣味……六七
文芸と遊芸　和歌　俳諧　野村望東尼と姫島　御隠参りと本参り
四　美術……六二
近世美術資料の概要　桜井神社所蔵の絵画史料



五　建築一社寺・民家一……六四
建築物概要　寺社建築　民家建築
第二節　宗教……六六
一　仏教……六六
本末制度　檀家制度
二　志摩町の寺院……六八
概要　瑠璃光寺　運照寺　妙楽寺　西林寺　南林寺　戒寶寺と教念寺　秀善寺　専光寺
三　神道……六四
神職と修験
四　志摩町の神社……六六
概要　鎮守神社　六所神社　志々岐神社　日吉神社（久家）　大祖神社　姫島神社　桜井神社　堀十神社
五　民間信仰……六五
庚申塔と道祖神　庚申信仰と講　糸島半島内の石塔身の諸神　志摩町内における庚申塔の建立年代

## 第六編　近　代

第一章　明治維新……七三
第一節　明治新政府の諸政策と志摩地域……七三
一　王政復古と戊辰戦争……七三
大政奉還　関東・東北への出兵　戦死者を祭った招魂社　アメリカ船と日本人乗組員
二　藩政改革と版籍奉還……七七
藩治職制　版籍奉還　今津新開の悲劇
三　福岡藩贋札事件と藩置県……七三
贋札事件　藩債の処分　廃藩置県　管内の巡村　黒田家の士族　朝鮮人の漂着
四　身分的諸規制の撤廃……七〇
士族と卒　穢多皮から己れ編へ　「解放令」と「編編製　身分親制の撤廃
五　筑前竹槍一揆とその影響……七七
怡土郡中津隈　揆　筑前竹槍一揆の発端　打ちこわしと焼き打ち　志摩郡の動向　一揆の処分　一揆の歴史的評価
六　地域編制の模索と大小区制……七一
村役人の任命　戸長編制と区長区　大区小区制　地方三新法と郡役所　戸長役場　郡区町村編制の事蹟
第二節　西欧化政策の推進……七五
一　地租改正……七五
地租改正法　福岡県の地租改正　志摩地域の地租改正　改租事業とその評価　地租改正後の状況
二　学制と小学校教育……七〇
藩校・私塾・寺子屋　志摩郡の私塾・寺子屋　学制発布　志摩町域の小学校　教育勅語と戊申詔書
三　徴兵制と民衆……七六
徴兵告諭　血税騒動　徴兵の免役条項　鎮台
四　郵便制度と人力車の普及、電信の発展……七九
郵便制度　人力車　電信
五　文明開化の諸政策と世相……七三
文明開化　明治四年の世相　明治六年の世相　人心の変化と髪型
第二章　立憲政治への道……七六
第一節　立憲政治への胎動……七七
一　士族反乱とその終末……七七



佐賀の乱　秋月の乱　西南戦争　福岡の変
二　自由民権運動の勃興……八〇三
民選議院設立建白書　向陽社　筑前学会　国会開設・条約改正建白書　紫溟会　怡土親睦会　小区会・大区会・県会・県会　会　県会議員選挙
三　糸島郡の成立と町村合併……八三
郡制　町村制施行
四　条約改正案への反対運動……八七
客政の不平等条約　条約改正　筑前協会　来島恒喜の投弾
五　明治憲法の制定……八九
国会開設の詔勅　憲法制定の準備　金子堅太郎と明治憲法
第二節　近代国家の発展……八三
一　近代産業の成立と展開……八三
明治四十年の糸島郡の工業　生産物価額の構成と変化　糸島郡の産業の主な生産品
二　近代農業の成立……八九
福岡農法　林遵里　椎井時敏　糸島郡の農業の推移　米麦の価額の推移　養蚕業　製糸業　製糸工場　茶種の栽培
三　郡農会・町村農会と農業技術の改良……八九
糸島郡農会の成立と町村農事組合　糸島郡連農会　農業技術の改良普及
四　教育の充実と村の小学校……八四
志摩地域の小学校　農隙社の民間夜学校　桜井村　野北村　赤屋村　小富士村　可也村
五　日清戦争……八四
義勇団出兵
六　日露戦争……八四
九八七六　土地改良運動の進展……八四
地方改良運動とその実施……八四
地域社会の国家主義的統合　村の名望家　地方選挙の仕組み　青年団　処女会　在郷軍人会
十　産業組合と各村の状況……八五
産業組合の設立　可也村　桜井村　小富士村　野北村　芥屋村
第三章　第一次世界大戦と大正デモクラシー……八九
第一節　第一次世界大戦……八九
一　第一次世界大戦と日本……八九
第一次世界大戦への参戦　シベリア出兵　銃後の村　戦争景気　戦後不況と農業の展開　農作物栽培の変化　糸島郡の地方税行の発展　糸島領行　壹岐領行
第一節　大正デモクラシー……八四
一　糸島における大正デモクラシー……八四
大正デモクラシー　糸島における大正デモクラシー　期の『糸島新聞』　糸島立憲同志会の結成　糸島立憲青年党の結成　選挙と思想　村の政党支持
二　農民運動の組織化と小作争議……八七
小作人運動の三つの高まり　明治初の志摩郡の地主小作関係　産米騒動と反対運動　部落解放運動の開始　糸島郡の小作争議　小作料　郡農民組合結成以前の小作争議　小作料争議の規則・制度　糸島郡農民組合の結成　日本農民組合福岡県連合会の結成　小作争議の激化
三　大正末期の五ヶ村の社会・経済状況……八〇
農業別戸数の構成　自作・小作・自小作別の構成　耕地所有区分別の構成　農産物価額の構成



第三節　交通の近代化と大正の新文化……八四
一　交通近代化への道程……八四
国道一〇二号線　北筑軌道・北九州鉄道　堀島渡船　乗合自動車　自転車の普及
二　大正の新文化……八九
郡内の学業教育　糸島中学校・農学校　女子教育
第四節　近代の志摩の水産業……八九
一　志摩郡の漁業……八九
隼志新町の漁業　姫島の漁業　野北の漁業　谷屋の漁業　小富士村の漁業
二　志摩の捕鯨……九〇六
姫島への鯨人漁
三　志摩の漁業組合……九〇七
漁業組合の設置　保証責任漁業協同組合の設置
第四章　第二次世界大戦への道……九三
第一節　昭和恐慌前期の政治と社会状況……九三
一　昭和恐慌下の志摩地域……九三
農村恐慌と志摩地域　時局関連事業　農山漁村経済更生運動　負債整理組合
二　満州事変と地域における「革新」運動……九八
満州事変　地域における「革新」運動　海外移住・「満州移民」
第二節　第二次世界大戦と志摩地域……九六
一　日中戦争の勃発と戦時体制への移行……九六
日中戦争下の社会　翼賛体制
二　志摩町の軍事施設……九三
小富士海軍航空隊当時の情勢　航空兵力増強計画　飛行予科練習生の採用状況　航空隊用地に関する経緯　小富士海軍航空隊沿革の概要　海軍飛行予科練習生制度創設沿革　小富士航空隊における甲飛予科練生の足跡　元小富士航空隊の兵舎焼失　元予科練生の回想録　終戦後の航空隊跡　久留米陸軍工兵隊船部第演習場　竹ノ越の防空監視哨　小倉兵部補給廠小富士常駐班　第六三四海軍航空隊玄界基地　三百十二師団西部糸島半島配備
（コラム）真珠湾攻撃の思い出